

第1回 阿賀野市地方創生市民会議 議事要旨

1 会議の概要

日 時 平成27年7月6日(月) 午後3:00~5:00

場 所 阿賀野市役所 403 会議室

出席者

【外部委員】

田中座長、芋川委員、上松(昭)委員、上松(和)委員、小林委員、島田委員、武田委員、田村委員、永松委員、羽賀委員、服部委員、百都委員、渡辺委員

【市】

田中市長、圓山総務部長、井上民生部長、土岐産業建設部長

市長政策課：中野課長、苅部参事、菅原課長補佐

社会福祉課：小菅課長

農 林 課：小林課長

商工観光課：北上課長補佐

2 議事概要

(1) 座長及び座長代行の選任について

(2) 国のまち・ひと・しごと創生長期ビジョン及び総合戦略について

(3) 阿賀野市の人口動態及び産業・雇用状況等について

(4) 阿賀野市の地方創生への検討・推進体制及び総合戦略策定スケジュール等について

3 主な意見

(1) 阿賀野市の現状分析

○ 資料6「阿賀野市の現状概要報告書<経営環境の共有化>」について、全体として良く分析された資料である。10分野の社会指標で近隣自治体(新潟市、新発田市、村上市、五泉市、胎内市、聖籠町、阿賀町)と比較しているが、人口規模の近い市(村上市、五泉市、胎内市、小千谷市、見附市、妙高市など)と比較した方がより強み、弱みがはっきり出てくる。

- 資料6「阿賀野市の現状概要報告書〈経営環境の共有化〉」において、全中学生アンケートは評価できるが、小学生も調査対象にしてはどうか。

(2) 地方創生のあり方、方向性

- 地方創生は新しいことをやらなければならないという意識が強いが、これまで行ってきた地域政策、地域振興（過疎対策、ふるさと創生事業など）を同時並行でレビューしておくことが必要。

※ふるさと創生事業：1988年から1989年にかけて、各市区町村に対し地域振興に使える資金1億円を交付した政策

- 中学生を含めた10代、20代が、（地方創生は）自分たちの問題だという意識を持たなければ地方の未来は厳しい。
- 資料6「阿賀野市の現状概要報告書〈経営環境の共有化〉」の市民意識調査結果を見れば、子育て支援の充実、雇用の創出、高齢者対策の充実などやるべきことは見えているが、他市町村と同じことをやっていると何も変わらない。18歳まで医療費無料化など、より大胆な事業が必要と思う。
- 基本的に他の自治体が真似できることでは、予算を多く割いただけという結果になるのではないか。やはり、地域の特性に着目して、地理的な要因、歴史文化的な要因などを前面に押し出して、魅力的なものをつくるという視点でいくのが良い。
- 地域課題はどこも似ているので、どうしてもできる戦略も似たものになるざるを得ないと思うが、地域の特色を生かした戦略策定が必要であり、どれだけ地域の特色を拾えるのか重要な要素である。

(3) 日本版CCRC、日本版DMO

- 日本版CCRCと日本版DMOは国が大きく打ち出している政策である。
阿賀野市にフィットするかは（地域を良く知る）市民で考えた方が良い。
- ※日本版CCRC：東京圏をはじめとする高齢者が、自らの希望に応じて地方に移り住み、地域社会において健康でアクティブな生活を送るとともに、医療介護が必要な時には継続的なケアを受けることができるような地域づくりを目指すもの
- ※日本版DMO：専門性の高いマーケティングや戦略的な地域づくりの中核を担う観光組織

(4) 結婚に対する意識

- 若年層の結婚に対する興味・関心が薄くなってきているように感じる。
晩婚化の要因となっていることから何らかの対策が必要である。
- 独身者の親子連れに触れる機会を増やすことで、結婚意識の向上に繋がるのではないか。

(5) 阿賀野市の歴史、伝統

- 資料6「阿賀野市の現状概要報告書〈経営環境の共有化〉」において、市の魅力として「歴史や伝統がある」を挙げている割合が7.4%と低い。阿賀野市には、勝海舟、佐久間象山といった全国クラスの歴史的な著名人も多く訪れているので、それをうまくPRしていけば、市に誇りを持つ人が増えるのではないか。
- 子どもたちだけでなく、大人も阿賀野市のことをどれだけ本当に認識しているか。地元愛をはぐくむ教育に力を入れないと、地元に住み続けようとは思わない。もっと地域の歴史を知るべきである。
- まちおこし、地域おこしの観点からも歴史、伝統は重要である。

(6) 出産、子育ての環境、サービス

- 阿賀野市は新潟市に比べて（出産、子育ての）サービスが落ちるのではないか。阿賀野市には助産師が一人もいないと聞いた。
- 阿賀野市は大規模な公園や安心して子どもを遊ばせられる場所が少ない。子育て環境の整備が必要。

(7) 阿賀野市のイメージ

- 合併して11年目になるが、阿賀野市のイメージが市外者に定着していない感じを受ける。「阿賀野市と言えば〇〇」といった掘り起こしが必要。

(8) 自然環境

- 阿賀野市は自然豊かで住みやすい所である。もともと住んでいる人は交通の便に不満があるようだが、（首都圏からの移住者である）私にとってはあまり気になることではない。自然の素晴らしさを前面に出していけばよい。

(9) 地域産業

- 瓦職人、左官屋など今後、人材が不足すると思われる分野を育成できる地域の仕組みを構築することが重要である。また、新潟市との関係の中で、阿賀野市は何を担っていくのかというポイントで見ることも重要と思う。
- 建設業は雇用力トップの産業である。今後、公共事業が減少していくことが予想される中、異業種への参入や異業種との連携が必要となる。
各企業において、変革していくというマインドを高めていくことが大切である。
- 企業誘致などで市内に雇用が創出された場合、人材確保の面で不安がある。